

国語

小学校国語科におけるNIE教育に関する研究 —新聞を継続的に読み、コラムのアンソロジーを編纂する活動を中心に—

船橋市立丸山小学校教諭（前同市立法典西小学校教諭） うちだ みずえ 内田 瑞恵

PISA 調査や全国学力・学習状況調査の結果によれば、複数の情報を関係付けたり表現の工夫を捉えて解釈したりすることに課題があることが明らかとなった。これらの課題を解決するためには、一つの出来事が多様なテキストで構成されている新聞を使った学習が効果的である。

そこで本研究では、新聞のコラムをアンソロジーに編纂する学習を行うとともに、新聞を継続して読むカリキュラムの構築に取り組んだ。その結果、これらの学習が、複数の情報を関係付け、表現の工夫を捉えて解釈する力を育成するのに有効であるとともに、豊かな新聞読書生活を営む態度を養うのに有効であることが明らかとなった。

社会

批判的思考力を育成する小学校歴史学習の構想 —児童が歴史上の人物の働きを評価する人物学習—

鎌ケ谷市立中部小学校教諭 みずぐち ようすけ 水口 陽介

本研究は、批判的思考力を育成することを目的とし、小学校の歴史学習にその観点を取り入れた学習の在り方、批判的思考力の育成の有効性について明らかにしたものである。批判的思考力を育成するためには、「児童が歴史上の人物の判断や働きを評価する学習活動」を意図的に設定する実践が有効ではないかと考えた。また、歴史的事象や偉人等を暗記するだけの学習から脱却するとともに、児童に事実認識をさせていくためには、人物の働きに着目させる必要性もあると考えた。小学校歴史学習においては、当時の歴史的背景や事実認識を捉え、政策決定等におけるその人物の働きや判断の妥当性や正当性を評価する学習を単元に組み込むことが批判的思考力の育成に有効であることが分かった。

算数

既習の内容と結び付けて解決の見通しがもてる児童の育成 —分数の学習における「見通しマップ」の活用を通して—

木更津市立畑沢小学校教諭 わかしま ひでかず 若島 秀和

見通しがもてず、算数の学習について消極的な児童に対して、自ら解決の見通しをもてるようにするためには、単元の学習の構造や学習内容を可視化した「見通しマップ」を段階的に作成・活用することが有効であるかを検証した。その結果、既習の内容と問題との結び付きを意識する児童が増え、既習の内容と結び付けて解決の見通しをもつことができるようになった。さらに、学習の学び方を知ることへとつながり、「見通しマップ」の活用は有効であることが分かった。

理科

生命を尊重する態度を育成する理科教育 －「一人一飼育活動」を通して－

一宮町立一宮小学校教諭（前茂原市立緑ヶ丘小学校教諭） ^{しげむら}重村 ^{ひでのぶ}英伸

本研究では、児童一人が動物を一匹飼育する「一人一飼育活動」を通じた生命と関わる体験が、「生命を尊重する態度」の根底にある「生命観」の育成に有効であるかを調査した。飼育動物は、第3学年ではモンシロチョウ、第4学年ではカブトムシ、第5学年ではメダカ及びメダカの卵とした。児童は飼育活動を行う中で、生命活動の不思議さや神秘さに対して驚きや感動を味わったり、成長への願いや喜びを感じたりするなど、様々な感情を抱いた。その結果、飼育活動を行っていない児童に比べ、「生命観」の主要概念の一つである「生命概念」に高まりが見られた。このことから、「一人一飼育活動」は児童が「生命を尊重する態度」を身に付けるために有効であることが分かった。

体育

「運動をすること・体を動かすことが大好き！」な子供の育成 －多様な動きを取り入れた教材の開発と授業プランの構成－

いすみ市立太東小学校教諭（前御宿町立御宿小学校教諭） ^{さとう}佐藤 ^{としゆき}俊之

今の子供たちに必要なのは、活発な身体活動を行い、成長や発達に必要な体力を高めること、遊びや運動に親しむ身体的能力の基礎を養っていくことではないかと考えた。

本研究では、実態調査として、事前アンケートや新体力テストを行い、情意面や基礎的運動能力を分析した。それらの結果を受け、競技スポーツからヒントを得て、教具の工夫、ルールや評価基準などを設定し、新しい教材「スノースロー」や多様な動きに多く触れ、慣れ親しむための「動的ストレッチ体操」を考案し、実践した。そして、子供たちが「楽しい」「またやってみたい」などといった情意面の向上や基礎的運動動作の習得を促進させるための有効な授業プランの構成についても探求した。

道徳

「シビックプライド」の涵養をねらいとした道徳教育プログラムの実践 －「郷土の魅力」発信活動や郷土教材・ゲストティーチャーの活用を通して－

市原市立市西小学校教諭 ^{くしだ}串田 ^{あつのり}篤則

道徳科における「郷土への愛着を育む学習」の目指す姿を検討すると、そこに「『シビックプライド』の涵養」があると捉えられた。シビックプライドの涵養を目指して、児童が郷土を自分との関わりで捉え、切実感をもって考えられる、道徳科を要とした道徳教育プログラムを構成し、実践を行った。その結果、「郷土の魅力を他地域に発信する活動」や、その過程の「郷土教材やゲストティーチャーから学び、考える学習」を通して、特に「シビックプライド低群」の児童に尺度上の数値が増加する等の変容が見られた。このことから、郷土の魅力を他地域に発信する活動や郷土教材やゲストティーチャーから学び、考える学習はシビックプライドの涵養に効果があることが分かった。

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間を中核として学校教育目標を具現化するカリキュラム・デザイン ー論理的思考力を効果的に育成する授業の方策ー

我孫子市立新木小学校教諭 ^{すぎもと} 杉本 ^{かずき} 一生

「担任一人一人が取り組むカリキュラム・マネジメントとは一体何か？」今回改訂された学習指導要領では、総合的な学習の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核になることが今まで以上に明らかとなった。また、これからは担任一人一人がカリキュラム・マネジメントに取り組まなければならない。本研究では、カリキュラム・マネジメントのうち、担任に最も関わりの深いカリキュラム・デザインに注目した。学校教育目標が示す児童像を具現化するためのプロセスや、各教科と学びを繋ぐ単元や授業の設計を中心としたカリキュラム・デザインを通して、本校の学校教育目標の一つである論理的思考力を効果的に育成する方法を検証した。

学校・学年・学級経営

通常の学級における認知行動療法の視点を取り入れた学級経営 ー小学校教員との面接から見えてきたものー

野田市立尾崎小学校教諭 ^{さかぐち} 坂口 ^{あやな} 彩奈

通常の学級において、児童相互や教員と児童とのよりよい人間関係を育てるために教員が行っている指導や支援は、認知行動療法の考えに基づいているのではないかとすることを明らかにするため、千葉県・千葉市教員等育成指標を構成する三つのキャリアステージにおけるステージⅡ【発展期】以上の小学校教員に対して面接調査及びフィールド調査を行った。その調査から、認知行動療法の視点を取り入れた指導や支援がなされていたことや、その手立ての有効性を明らかにすることができた。また、教員は意識せずに認知行動療法の視点を取り入れていたことも分かった。認知行動療法の視点を取り入れることで、児童相互や教員と児童とのよりよい人間関係が構築されるという効果が期待できる。

知的障害

知的障害特別支援学校における「見る力」を育てる指導 ー視覚機能と身体の育ちに関するアセスメントに基づく活動実践を通してー

県立八千代特別支援学校教諭 ^{あべ} 阿部 ^{はつみ} 初美

「はさがみ苦手」「文字が上手に書けない」「ボール運動が苦手」といった不器用さのある知的障害児に対して「見る力」に着目した指導を行った。はじめに、「見る力」に関する課題を把握し必要な指導を行うための、アセスメントツールと活動集を併せた「知的障害のある子の『見る力』を育てるBOOK」を作成した。高等部生徒を対象に、アセスメントに基づく活動を継続的に行ったことで、視覚機能や運動の力が改善し、不器用さの改善にもつながってきた。これらのことから、不器用さのある知的障害児に対する「見る力」を育てる指導の有効性を示すことができた。また、この「見る力」を育てるBOOKの活用が知的障害特別支援学校における「見る力」を育てる指導の充実につながった。

特別支援教育課題

児童生徒に対するキャリア発達を促すためのキャリア・パスポートの活用 ー目標の具体化と学習との関連付けを図るためのツール開発と効果的な対話の在り方の検討ー

県立夷隅特別支援学校教諭 いしばね さとみ 石羽根 里美

キャリア・パスポートの活用に向け、知的障害のある児童生徒が今の学びと自己の将来を結び付け主体的に学びに向かうための支援方法を明らかにするために、「目標を可視化・具体化するためのツール開発」、「対話の在り方を検討するための教員の学び合い」を行った。その結果、児童生徒が学習の目的を見だし、主体的に学びに向かう姿につながった。このことから、本人の願いを踏まえた目標を可視化し、各教科等での学びを具体化するとともに、児童生徒と教員間や児童生徒間で考えや思いを共有化することの必要性が明らかになった。また、教員の学び合いの場を設定することで、様々な視点や解釈を共有し、支援策を見いだしていくことが対話の具体的方策を考える上で有効であることが確認できた。

企業等派遣

「UNITEDプロジェクト」今できることを考える ー企業に学ぶ 障害者のニーズに合った適切な就労支援ー

県立千葉特別支援学校教諭 しだ みゆき 志田 美由紀

地域と共に歩むクラブ「ジェフユナイテッド株式会社」において、新型コロナウイルス感染症感染拡大という難題を乗り越えるため「UNITEDプロジェクト」をテーマにクラブの方々と一丸となり「今できること」を模索した。オンラインを活用した地域の子供たちとの交流や、ジェフオリジナルの手洗い動画の作成など、今ならではのアイデアを生かした取組をまとめた。また、障害者の就労に係る課題をクラブの方々と共有し、サッカークラブの力を障害者の就労支援に生かしていけないかと提案した。ジェフ（SSP UNITED）×県障害者就労事業振興センター×福祉事業所が連携し、地域共生事業、「蘇我スポーツ公園除草作業」が実現できた。そのプロセスと今後の可能性・発展性についてまとめた。

企業等派遣

企業経営から学ぶ業務改善の方策と人材育成

館山市立神余小学校長（前同市立第一中学校教頭） やすだ あつし 安田 淳

職員全体が負担感を感じることなく勤務できる学校作りを目指すため、様々な人と接している企業から業務の進め方と人材の育て方を学んだ。毎日ホテルで働く社員の姿を追いかけてながらフロント、レストランを中心に勤務し、①名前を覚えることの大切さ ②情報共有しチームで対応すること ③OJTで若手を育てること ④様々な人との関わりを大切にすることの4点を改めて認識できた。どの業種でも変わらない不易なもの、逆に新しい時代に大切にしなければならないものを確認し、学校が目指す業務改善や人材育成と一緒だと感じた。管理職として一層業務改善と人材育成に励み、教職員が充実感をもって勤務でき、子供たちが「通ってよかった、楽しい」と感じられる学校作りに邁進したい。